

ご挨拶

藤崎 晃*
Akira Fujisaki

古河電工時報は第145号をお届けするにあたり、読者の皆さまにより親しみやすい技術情報誌を目指して紙面を刷新しました。これまで論文集として専門性の高い技術情報をお届けしてきましたが、急速に進展するAI時代において、当社の技術がどのように社会を支えているのかを、より多くの読者の皆さまに実感いただける誌面を目指しました。巻頭では、特集テーマである「AI時代におけるデータセンタの課題と古河電工の挑戦」を紹介しています。急増するデータトラフィックに対応する中で顕在化するさまざまな課題に対し、当社は、放熱・電気配線・光通信・電線・記憶媒体といった技術を結集し、データセンタの高度化を支えます。本特集では、これらの技術がAI時代のインフラにどのような価値を提供できるのかを、俯瞰的に分かりやすく紹介しています。

また、各論文の末尾には解説記事を新設し、背景となる技術や用語を丁寧に補足しました。専門外の読者にも内容を理解いただきやすくとともに、研究者・技術者が互いの領域を越えて学び合う契機となることを期待しています。こうした工夫は、幅広いステークホルダとの共創を重視する当社の姿勢とも軌を一にするものです。

生成AIの普及が社会のデジタル基盤を大きく変えつつある今、電線製造技術から派生したメタル、ポリマー、フォトリソ、高周波の4つのコア技術と、それらに基づく提案力は、次世代の情報インフラを支える上でますます重要性を増しています。本号が、読者の皆さまにとって当社技術の可能性を感じていただく一助となれば幸いです。

* 執行役員 研究開発本部長
部署名は2026年3月時点の所属を記載しています。